

令和3年度 第1回地方創生推進委員会議事録

会議名称	令和3年度第1回芦屋町地方創生推進委員会					
日時	令和3年8月3日（火） 午後6時57分～午後7時53分					
会場	芦屋町役場 3階 31会議室					
議題	<p>1 議事</p> <p>(1) 令和3年度スケジュールについて</p> <p>(2) 令和2年国勢調査人口速報集計結果について</p> <p>(3) 令和2年度における第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価（案）について</p> <p>(4) その他</p>					
委員の出欠	会長	内田 晃	出	副会長	吉岡 学	出
		横尾 武志	出		松本 健吾	欠
		松岡 泉	出		中西 智昭	出
		福島 直人	出		須河内 美紀	欠
		山村 朋代	欠		安増 雅史	出
合意 決定事項	<p>・評価（案）について、承認される。</p>					

1 議事

(1) 令和3年度スケジュールについて

(事務局)

資料1を用いて、事務局より説明。

質疑なし

(会長)

今年度は大幅な修正がない限り、推進委員会の開催後、議会への報告の流れで進めさせていただく。推進委員会の開催は今年度1回となる。

(2) 令和2年国勢調査人口速報集計結果について

(事務局)

資料2を用いて、事務局より説明。

質疑なし

(会長)

こちらはあくまでも速報値なので、確定ではないが、誤差はあまりないと思われる。人口ビジョンの推計値よりは減少幅が少なく、想定していたよりは減少していないことが分かる。5年ごとの増減率も $\Delta 7.55\%$ から $\Delta 4.55\%$ となっており、総合戦略の施策の実施によって減少幅が少し抑えられたといえるのではないか。北九州市は年間3,000人から年間4,000人減となっており、減少数が加速化している。

(3) 令和2年度における第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価(案)について

(事務局)

資料3-1、3-2を用いて、事務局より説明。

(委員)

評価はどのようなところで行っているのか。評価委員会などはあるのか。

(事務局)

評価は各所管部署で行い、その後ヒアリングで協議を行っている。その結果を踏まえたものを、町長をトップとした地方創生推進本部で検討したうえで、本日提示して

いる。

(委員)

全般的にいうと、補助金交付や、金銭面で補助する部分はよいが、他の部分はどう評価するのか。

(事務局)

全体の評価の中で、今回イベントなどはコロナの関係で実施できていないため、目標値に達していない傾向があろうかと思う。その中で、補助金を出しているところは目標通り実施できている傾向があると思っている。

(委員)

今後はどういう方向性になるのか。

(事務局)

第2期の計画について、今年度を初年度とし、5年間の計画として定めている。現時点で改訂する予定はないので、コロナの状況はあるが、計画通り推進していきたいと考えている。

(会長)

評価がおかしいところがあれば、ご意見いただきたい。気になった点として、12ページの北九州市との連携中枢都市圏事業については、目標値に対して実績値が上回っているが、評価Bとしている。イベント等が出来なかったためだと推測されるが、目標値を上回っていてもBとしており、辛口の評価であると感じる。逆に、7ページの新婚子育て民間賃貸住宅家賃補助は1年間の交付件数が14件であり、目標値に達しないのではないかと、評価が甘めなのではないかと感じる。

(事務局)

12ページの北九州市との連携中枢都市圏事業については、指摘のとおり、目標値に達しているが、事業内容として出来ていない内容があり、B評価としている。他の項目にもいえるが、数値目標には主な事業の項目を掲げており、事業概要にはそれ以外の項目もあるので、総合的な判断として評価を行っている。7ページの新婚子育て民間賃貸住宅家賃補助は令和2年度14件となっているが、目標値として補助金新規交付件数を累計で140件としている。KPIの欄に記載があるが、第1期で76件、令和2年度で14件、これから5年間実施していくため、令和2年度の14件×5年＝70件となる。第1期の76件に70件を足すと146件となり、指標だけで

例えば、目標値の140件を超えているため、A評価としている。

(会長)

第2期の目標値ではなく、第1期の数値も含めた設定であるため、本来であれば64件にしておかなければいけなかったのではないのか。

(事務局)

目標値の設定の仕方で、累計と記載させていただいている分については、第1期からの累計としているが、県の総合戦略も同様となっており、県の作り方と同様にしている。評価の基準のところ、まだ第1期が終わる前に計画を作っているため、通算した方が数値として分かりやすいということで今回のような定め方をしている。

(会長)

それであればA評価で問題ないと考える。他に質問等ないか。

(委員)

今回の評価表は、コロナ関係で計画しているものがほとんど実施できなかった状況の中で、苦勞し、イベントもできず、評価が落ち込んでいる状況となっているが、全体を見ると精いっぱい頑張っているのではないかと考える。評価はこれでよいと思うが、計画の変更については5年間で設定しており、大きな変更はしないということで、先ほど事務局から説明があったが、「安全・安心な地域づくり」のところ、一部法の改正等が行われているため、全く目標を変更しなくてよいのか。マイタイムラインについて令和2年度は今までの法が適用されるため、このままの表記でよいが、今後第2期の中で目標設定をするときに、変更が生じる。計画の修正を行う予定はないのか。

(事務局)

総合戦略の改訂については、今年度改訂を行う予定はないが、必要に応じて改訂をしていかなければならないと考えている。国が方針を出すため、その後県が改訂する、芦屋町が改訂するといった流れになる。芦屋町が改訂を検討する際には、この地方創生推進委員会でお諮りし、計画の改訂を行うことになる。

(委員)

2ページ目のイベントについて、コロナの関係で計画していたイベントが次々に中止となっており、非常にダメージを受けている。昨年からの観光客の入込動向を見ると、以前からの余暇の楽しみ方と大きく変わってきている。多額の費用を投下しなくても、家族ぐるみで1日もしくは半日ゆっくりと楽しめるような海浜公園遊具などを

使用する方、健康増進を目的としたジョギングなどを行う方が海浜公園や夏井ヶ浜はまゆう公園で増加している。観光協会が行っているレンタサイクルもGW前まで土日フル回転で続いている。日常的な事業に打ち込めるような即効性のある柔軟な予算の運用をしてほしい。支援があれば、観光客が減った分を少しでも補填できると思っている。はまゆう公園は、一年を通して、早朝から駐車場がいっぱいになっている。行政側が取り組んでいる、はまゆう公園の愛鍵モニュメントなどは、納得できる部分である。また、釣りのために来園された方々だけでなく、健康増進のために高齢者が多く来園し、散策している。お客さんのニーズを調査する必要があるのではないかと考える。

(事務局)

産業観光課が、ご承知のとおり、管轄部署となるので、意見があったことは伝える。観光のことであれば、観光協会と連携して進めていかなければならないため、併せて依頼したいと考える。

(会長)

他にないか。意見の中で、大幅な修正はなかったかと思う。令和2年度における第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価（案）について、委員会として承認してよろしいか。

異議なし

(4) その他

(事務局)

・議事録及び報酬・費用弁償の支払い方について説明。